

もしもの時のために

くりはらしりついちほま

栗原市立一迫小学校

六年 崎野 寛太

「寛太君、子どもの人数を数えて報告してください。」

これは、六月十二日に行われた、地区の防災避難訓練で地区会長さんからかけられた言葉です。私の家族は、毎年この地区防災避難訓練に参加しています。小さい時から参加している私は、正直、「また同じことをするの

か」と面倒くさい気持ちでいっぱいでした。ましてや、その日はあいにくの雨で、避難場所に着く頃には足元がぬれてしまっていました。しかし、面倒くさかっ^ていた私は、そう思った自分を恥^ずべきことだと思いました。なぜなら、自分の目の前には、歩くことが大変そうな年配の方や杖をついている方、そしてラブラドル犬のさくらちゃんまで、か一生懸命に避難してきていたからでした。そこで、集まった顔ぶれを見ると、若い方があま

りいないことに気がつきました。(もし、土
 砂災害や自然災害が起きたら、本当にみんな
 動くことができるのだろうか。)と一気に不安
 が私に押し寄せてきました。その時、地区会
 長さんが「私たちの地区には、県の土砂災害
 警戒区域に指定されている場所があります。
 地震だけでなく、土砂災害にもしつかりと備
 えなくてはいけないのです。避難訓練は、も
 しろの時のために、みんなが日頃から顔を合
 わせ、お互いの近況を報告し合うことも必要

なのです。そして、まだ大丈夫と思わず、い
 ざという時には早めに避難することが大切で
 す。空振りになることが良いことですから。
 とお話されたのでした。それを聞いた私は、
 「もしもの時のためにと空振りが良い」とい
 う言葉が頭から離れませんでした。そして、
 小学生の私でも、何かあったら動ける一人と
 して、役に立てるかもしれないという気持ち
 になりました。訓練に参加したことによって、
 地域には大勢のお年寄りや助けを必要として

いる方がいるという現状を理解することか
きたのでした。

その避難訓練を機に、私の家の裏山が、土
砂災害警戒区域に指定されていることを今ま
で以上に意識するようになりました。今年の
夏だけでも、多くの場所で、短時間大雨情報
や線状降水帯の発生などのニュースが何度も
聞かれ、家の前の迫川の水位はどうだろうか、
山は大丈夫だろうかと心配になりました。夏
休み直前の七月十五日には、大崎市の名蓋川

5

が決壊して、住民の方がレスキュー隊の方に
救助される映像が何度も映し出され、人ごと
ではないような災害に思えました。

6

私の家の前の川は、数年前に河川の護岸工
事が行われました。近年の度重なる大雨で、
毎年大雨のたびに河道側ののり面が削られ、
流れが寄ってきていたからです。今は、その
工事のおかげで、大雨になっても以前より流
れが緩やかになり、心配が軽減されました。
このように私たちの生活を守ってくれる方が

いるのだということが分かり、自分でも土砂災害や自然災害について、もっと調べてみようと思いました。

母に相談したところ、首相官邸ホームページというサイトにもものっていることを教わり、早速調べてみました。その中には、土砂災害から身を守る三つのポイントや土砂災害の種類や主な前兆現象などについても書かれています。特に関心したことの中に、土砂災害の発生件数が、ここ十年では、平均して一

年間に千四百五十件も発生しているということです。その数は、平成十四年から私が生まれた平成二十三年までの十年平均のおよそ一・三倍になっているということです。この事実はいつでも身近に起こる可能性があるということ、私に改めて突きつけたのでした。

生まれた時から山川と共存している私だからこそ、もしもの時に、正しい判断で空振りでもいいから行動ができる人になりたいです。